



DYNAMICS

機械力学・計測制御部門ニュースNo.13

January 1, 1994

心理学での“引き込み”を active に考える

— Group Dynamics vs Mechanical Dynamics II —

吉武久美子 & 吉武 裕

(玉木女子短大)(長崎大学工学部)

裕「ニュースレターNo.11において、人間の『同調行動』が電気回路や機械等にみられる『引き込み』に対応することとともに、人間の『集団力学』(Group Dynamics)と『非線形系の力学』(Nonlinear Dynamics)とに対応関係があることなどをお話しさせていただいたわけだけど、今回は?」

久美子「今回は、最近の同調行動の研究動向についてお話ししたいと思います。心理学の世界では、従来、集団への同調(強制力への引き込み)を否定的に考えることが多かったみたいなんです。これは欧米の研究の影響が大きいと思われます。欧米では、いかに個人が周囲に引き込まれないでいられるか(心理学的にいうと、どうすれば同調しないか)という問題設定の中で、同調が生じる場合の条件の検討などを中心に膨大な研究が積み重ねられてきたんですね。日本でもやはり最近までこれを踏襲した研究が多かったといえるようです。

でも、私は『いかに引き込まれないか』、『引き込まれない条件は何か』という考え方は片手落ちではないかと思ったんです。はたして、引き込まれることは悪いことでしょうか?

そこで、数年前から個人が集団に同調する(引き込まれる)ことをポジティブに考えた研究を行ってきました。すなわち、個人が集団に同調することで、かえって集団との摩擦を避け、集団全体がうまくいくこともあるのではないか?ということですね。

従来は、個人が異なる意見を主張しつづけてまもらずに、結局は多数者(強制力)から同調させら(引き込ま)れて……決着という状況が考えられてきたんです。しかし、いわゆる同調(引き込み)の中にも、最初から(しばしばある目的や意図をもって)能動的に自ら集団へ同調して(これを私は active conformity と名付けました)、すなわち、引き込まれるこ

とを利用して周囲とうまくやろうとすることもあるのではないかと、思うんです。

私の実験で、集団のメンバーに4回にわたって旅行についての話をさせました。その話合いの中で、自分の意見も主張したいが、集団全体の摩擦の減少や円滑化をも考慮に入れる人は、最初に積極的に集団に同調する(引き込まれる)ことを選択しています。このように引き込まれることを選択しておいた人の方が、その後を見ると、集団内での摩擦が少なく、かえって集団内での発言権も強まり有利になることもあるようです。」

裕「なるほど引き込み(同調)の利用だね。もともと、電気系や、機械における井上順吉先生の一連の研究も、引き込みの利用を目的としたものなんだから、心理学の方でも同調をその観点から再考することは意味があると思います。

また、今までの議論のような、人の集団を強制自励系として捉え、自励振動(個人)が強制力(集団の多数者)へ引き込まれるという一方向的な状況だけでなく、集団の各人を1つの自励振動素子として、そして集団全体をそれらの相互作用下にある(連成した)多自由度自励系として捉えた方が妥当な状況もあるかもしれないよ。」

久美子「会議なんかで最初はまともじゃなかったものが、次第にまとまって全会一致になるなんていうのはそういうことかもしれないですね。」

裕「そうそう、それはブレーキの鳴きみたいに多自由度自励系で単一モードの振動(周期解)が発生した状態に相当するね。」

久美子「さて、この原稿が皆様のお目にふれる頃には、わが家では少子時代に逆行する第3子が誕生していることでしょう。そして、親とも、2人のお姉ちゃんとも違う、小さいけれども強い存在感をもつ新メンバーにふりまわされて、家族という集団全体が再構築に向い、きりきりまいしていることでしょうね。」

裕「振動的に言えば、さしずめ、1つの自励振動素子が加わり、系の自由度が1つ増加した状態で、定常振動か何かに向かって過渡振動しているってことだね。」

メキシコでの1年



吉村 浩二
(大分大学工学部)

メキシコは我が国と同様地震国で、1985年の地震では建物の倒壊等によりメキシコシティで1万人以上の死者を出しました。このためメキシコ政府の要請により、我が国の政府開発途上国援助（ODA）による5ヵ年の地震防災プロジェクトがスタートしました。私は建築構造物の耐震工学に関する技術協力をするため、長期専門家として昨年6月から1年間国際協力事業団（JICA）からメキシコ国立防災センターに派遣されたので、あまり知られていないメキシコの一端を思い付くまま紹介します。

メキシコ合衆国は国土面積が日本の約5倍もあり総人口は約9千万人ですが、首都メキシコシティに2千万人以上が集中しているのでメキシコシティは大都市です。北緯20度のこの街は、海拔：2,200メートルのために酸素の量が平地の約（3/4）で、気圧も低いので摂氏90度位でお湯が沸騰します。血中のヘモグロビンの量が増えるのに3ヵ月ほどかかりましたが、その後はこの環境に慣れて呼吸困難などの状態はなくなりました。

メキシコシティは周囲が山々に囲まれているため車の排気ガスや工場の煙がメキシコ盆地の中に滞り、世界有数のスモッグ公害都市です。ガソリンはメキシコで採れますが品質が悪く、酸素量も少ないこと、さらに町中を走り回っているかぶと虫（今ではメキシコでしか生産されていない空冷のフォルクスワーゲン）の排気ガスがスモッグの元凶だと言われています。

メキシコでは昼食時間は午後2時から4時までです。レストランでは、まずビールやテキーラを飲みながら食事をします。食事の後は酔っているので仕事になりません。大量の対外債務を抱えている原因の一つにこの昼食システムがあるかもしれません。メキシコには日本レストランも沢山ありますが、プエブラという街の日本レストランに行った時に、息子が『うどん』を注文したところ、『うどんの上にうなぎ』がのって出てきました。これは本当の話です。

メキシコシティには、15年程前に開設されたリセオメヒカーノハポネスという日本人学校があります。ここにはメキシコ人のコースもあり、メキシコでは最もレベルの高い学校の一つなので、大統領など上層階級やお金持ちの子息なども通っているそうです。息子はここの日本人コースの中2クラスに通っていましたが、2年生は1クラスだけで20名位の少人数クラスです。スクールバスで通っていましたがバスジャックが心配なためバスルートは公表されません。子供の誘拐が心配なため有名学校の生徒はスクールバスでの通学が普通です。

このようにメキシコは治安が悪いことでも有名です。我々の滞在中に卒業旅行に一人で来ていた日本の女子大学生が夜行バスの中で殺されました。女房の日本人の友達もほとんどの人がバスや地下鉄のなかで被害を受けていました。我が家の中学生の息子も3回襲われ、うち1回はナイフで脅されました。息子の左腕にはその時の切り傷が今も残っています。しかしながら、息子は喧嘩が強いので3回とも相手をノックアウトして帰って来ました。

メキシコではお金があれば、大抵の問題は解決するようです。警察官やお役人でも簡単に買収出来るそうです。交通事故を起こしても、その場で相手にお金を払えば警察は関係ありません。死亡事故を起こして、日本円で2百万円程度で解決したという話を聞いてびっくりしました。

職場ではほとんど英語で仕事が進むので、休日以外の日スペイン語はさほど必要ありませんでした。むしろ秘書には日本語を教えて、日本語で簡単な仕事は頼めるように特訓しました。しかし、街の中やタクシーやスーパーなどでは英語は全く通じませんので、日常会話としてのスペイン語はメキシコで生きて行くためには必要でした。

最後になりましたが、メキシコには美人が非常に沢山います。私もこれまで随分色々な国に行きましたが、美人の密度はメキシコが最高であり、これだけは私の予測が完全に狂いました。その理由は分かりませんが、コルテス侵略後4世紀半以上にわたる年月が、素晴らしい混血美人を生み出したのかもしれませんが。公害がなく治安さえ良ければ、余生をこの国で過ごすのも決して悪くはないと思います。



今ではメキシコでしか生産されていない公害の元凶？フォルクスワーゲン

三次元光プロッター



山野 健治
(デンケンエンジニアリング(株) 技術部)

1. 光造形装置

形あるものの開発では、必ずモデルの試作が行われる。従来、立体モデルの試作は職人もしくは機械による切削加工が主であった。しかし、切削加工では熟練した加工技術や工具の選択、加工条件の設定などの専門知識が必要である。

数年前より普及しつつある光造形装置は、CAD上で立体モデルのデザイン設計を行い、そのCADデータを元に光硬化性樹脂にレーザー光を照射し積層造形を行うものである。光造形装置はコンピュータのデータ処理により、モデル加工技術者に頼らず試作加工時間が大幅に短縮出来る。

2. 三次元光プロッター

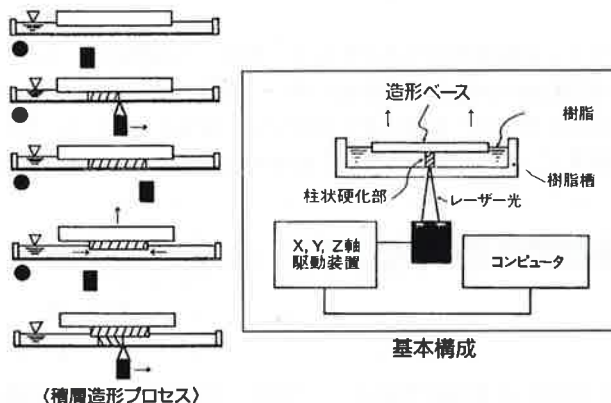
私が開発にたずさわった三次元光プロッターは、光源に半導体レーザーを使用し従来の紫外線レーザーによる光造形装置と比較し大幅なコストダウンを実現した。

基本構成は、CAD入力部、コントローラ部、造形装置からなる。CAD入力部では、造形するモデルを三次元入力

し、積層造形するため等高線データにする。コントローラ部は、CAD入力部で生成した等高線データを元に設定した造形パラメータで造形装置にデータ転送する。

造形プロセスを紹介すると

- ・①樹脂槽に樹脂を入れ、造形ベース（Z軸）を樹脂液面まで加工する。
- ・②X-Y軸を移動させながらレーザー照射をし、1層分造形する。
- ・③～⑤1層造形が完了すると、レーザー光をOFFし、造形ベースを積層する厚み分引き上げる。
- ・②～⑤を繰り返し立体モデルを作成する。



(積層造形プロセス)

『海外で頑張る機械技術者』 — 海外での技術者の心構え —



松本 岩男
(三菱重工 長崎研究所)

今時、言葉が出来ないからと海外旅行に消極的になる若者は少ない。また、企業における海外出張も珍しいものでは無くなった。しかし、旅行と出張は決定的に異なる。それは自分のお金で行くか、会社のお金で行くかという外面的な問題の他に何かあるのか気楽に考えてみたい。

1. 商社マンと機械技術者の出張の違い

私は商社マンや営業マンの場合がどうなのか詳しくは知らないが、海外出張を次のように大きく分けると技術者の出張との違いが明らかになる。

- (1) 帰着予定及び業務内容が明確なもの
- (2) 帰着予定は未定であるばかりか業務内容が判然としないうもの

ここで、商社マンの出張は(1)が大部分であろうと推測されるが、機械技術者の場合は(2)の場合が少なからずある。誤解の無いように言っておくが、どちらがより高度で、あるいは責任の重い仕事などと比較するつもりは毛頭ない。どちらにもそれなりの苦勞があることを承知している。

2. 機械技術者の海外での心構え

機械技術者が(2)の条件（はっきり言ってしまうとトラブル対策）で立派に業務をやり遂げるための心構えについて経験を踏まえながら考えてみたい。

【その1】 タクシー代の準備

もう随分前になるがスペインに出張した時のことである。マドリッドでローカル線に乗り換えて目的地に着いたまでは良かったが、飛行機が遅れ夕方となり両替が出来ずタクシー代も無く困ったことがある。この時は、空港の職員に頼んで両替して貰ったが、レートが高いか、安いかは問題では無く、ただ有難かったのを覚えている。

【その2】 何事にも動じぬ強心臓

これは、写真に示すプエンテスの発電所へ「タービンの振動問題を解決すること」と言ってしまうと明確？な出張目的で単身出向いた時に経験した、心細い体験から得た教訓である。それはタクシーの中から始まった。出発前に発電所の住所、電話番号等の必要な情報を準備し、それを見せて目的地に行き着くわけであるが、何せ当方はカタコトのスペイン語もできないわけで、事前に2時間位かかるとは聞いていたものの段々と不安になってくる。行程のほとんどが人家のないような山道を通るので、本当に間違いなく目的地に向かっているのか問いたい衝動と問えないジレンマと、そしてどうにでもなれと半ば自暴自棄的に過ごす2時間の長かったことが今でも忘れられない。

【その3】 郷に入れば郷に従え

使い古された諺ではあるが海外で仕事をする時ほど、この諺が実感されることは無い。大抵の場合、日本人技術者は早く帰りたいのか一生懸命に働いて仕事を速く済ませようとしますが、自分のペースで仕事が出来ないのが海外の環境であり、何故うまくいかないのか理由を聞くとなお腹が立つのが海外の仕事である。しかし、一人で仕事が出来ない以上彼等の協力を仰ぐしか無く、技術者の仕事に最も期待しているのは彼等であり、最善をつくしていることを察して友好的に仕事を進めることが結果的に近道となる。

- (2) 先端技術フォーラム「生命システムにおける創発的機能」(ロボティクス・メカトロニクス部門と共催)。
- (3) ワークショップ「トライボロジーとダイナミクスの共生」(機素潤滑設計部門と共催)。
- (4) ワークショップ「制御理論とその応用」(ロボティク

- ス・メカトロニクス部門と共催)。
- (5) 同好会はバイオエンジニアリング部門との合同で開催。

…今までとはひと味違った通常総会に
是非お出かけください。…

Dynamics and Design Conference 1994 開催のお知らせ

D&D '94実行委員会
委員長 谷 順二

部門の最大行事である D&D を1994年は秋田大学の協力を得て秋田市で開催します。今回の総合テーマは「新技術融合」です。

開催日時：平成6年7月11日(月)～15日(金)
場 所：秋田市文化会館

今回は、基本骨格として

- (1) 機械力学・計測制御講演会
 - (2) 第6回電磁気関連のダイナミクスシンポジウム
(委員長：永井正夫)
 - (3) 機能性材料とインテリジェント材料・構造システムシンポジウム(委員長：大日方五郎、大好直)
 - (4) 計測フォーラム(コーディネータ：梅田章)
 - (5) v_BASEフォーラム(コーディネータ：松下修巳)
- に加えて、以下の目玉企画を設けました。

- (A) 対決-制御理論
(パネル討論「アドバンスド制御のキテクノロジー」)
- (B) 秋田のシャンソン(ちょっとお洒落な音楽同好会)
- (C) イヴ・セミナー「エイリアンからのメッセージ」
(秋田温泉での異分野の研究者のお話)
- (D) 秋田名物「竿灯」(秋田大学による実演)

上記の他に、パネル討論「機械力学の教育を考える」(担当：清水信行)を企画しておりますので奮ってご参加ください。重要な締切期限は次のようになっております。

講演申込締切：平成6年2月28日(月)

原稿提出締切：平成6年5月10日(火)

講演募集の詳細は学会誌12月号に掲載されていますので、ご参照ください。

問い合わせ先：D&D '94実行委員会幹事 森下 信

〒240 横浜市保土ヶ谷区常盤台156

横浜国立大学 工学部

TEL 045-335-1451 ex.2789

FAX 045-335-0496

第2回運動と振動の制御(MOVIC) 国際会議の開催のお知らせ

開催趣旨：去る1992年9月に開催されました第1回運動と振動の制御国際会議には350名を越える参加者があり、180編の論文が発表され、成功裡に終了しました。この会期中の外国人参加者の強い希望もあり、また近年この分野の進歩は著しく、国の内外を問わず第2回目の開催を希望する声が強かったため、1994年8月に横浜で第2回目の国際会議を開催することになりました。今後の運動と振動の制御の研究分野の発展を目指した横断的な情報交換の場とするよう努めたいと思っております。多くの研究者、技術者の皆様のご参加を心からお待ち申し上げます。

論文募集研究分野：構造物の振動制御、モーションコントロール、ビークルコントロール、ロボットコントロール、情報

機器のコントロール、ロータおよび電磁力の制御、航空・宇宙構造物の制御、音場制御、制振・免振・振動絶縁、流体関連振動の制御、モデリングと同定、センサーとアクチュエータ、制御理論応用・制御手法、その他

開催日時：1994年8月31日(水)～9月3日(土)

開催場所：新横浜プリンスホテル

主催：日本機械学会機械力学・計測制御部門

アブストラクト申し込み締め切り：1994年1月31日

(600words以内、および図表1, 2枚)

申込先：〒263 千葉市稲毛区弥生町1-33

千葉大学工学部機械工学科助教授 野波健蔵宛て

(Tel.&Fax.043-290-3195)

受理通知：1994年3月15日

論文の提出：1994年5月31日

Fifth International Conference on Adaptive Structuresのお知らせ

開催日時：1994年11月7日～9日

開催場所：The Sendai International Center (仙台市)

Abstract締切：1994年4月30日(300～500words)

受理通知 : 1994年6月15日
 Camera-ready原稿提出日 : 1994年10月10日
 問い合わせ&申込先 : 〒980 仙台市青葉区片平2-1-1

東北大学流体科学研究所 谷 順二
 TEL 022-227-6200 ex. 2748, 3340
 FAX 022-223-2748

Dynamics and Design Conference '93 報告

D&D '93実行委員会
 幹事 木村 康治

総合テーマ「快適空間の創造をめざして」を掲げ、1993年7月19日から23日までの5日間、北とびあ（東京）にて開催されたD&D '93では、以下の多彩な行事が行われました。

- ・機械力学・計測制御講演会：一般講演と19のOS
- ・シンポジウム「第3回運動と振動の制御」：10のOS
- ・ワークショップ「ヒューマンダイナミクス」
- ・v_BASEフォーラム
- ・特別講演（I）（II）
- ・市民サマーセミナー「しんどうってナニ？」
- ・講習会：（I）「快適音場の創造をめざして」
 （II）「モード解析から制振設計まで」
- ・アイデアコンテスト「無重力環境下のおもしろ実験」
- ・若手フォーラム
 「若手研究者・技術者が考える10年先の機械工学」

- ・機器展示会：18社19ブース、12社カタログ展示
- ・見学会：（A）大蔵省印刷局、（B）日本タバコ産業
- ・D&D音楽会 ・懇親会

参加登録者は650名に達し、いずれも盛況でした。とくに、小中学生を対象にして振動を体験できる装置の展示実演を行った市民サマーセミナーには、親子連れを含めて多くの子供たちが集まり好評でした。アイデアコンテストでは、三浦泰夫氏（日野自動車工業）に優秀賞が贈られました。

参加くださった皆様はもとより、委員の方々、事務局の村山さん、会場担当で連日絶大なるご協力をいただいた埼玉大学の学生の皆様に、心から御礼申し上げます。

	発表件数	参加登録者
シンポジウム	89	267
機械力学・計測制御講演会	236	503
ワークショップ	6	—
v_BASEフォーラム	21	—
計	352	650 (通し120)

（発表件数には、特別講演・基調講演・依頼講演を含む）

D&D '93オーディエンス賞選考報告

D&D '93実行委員会
 委員長 背戸 一登

同賞は、D&D '93参加者の投票により、高い評価を得た講演者に対して贈賞されます。選考委員会では、講演評価シートの集計結果に基づく慎重審議の結果、右記の3名の方を表彰

委員会に推薦し、10月開催の運営委員会にて決定されましたのでご報告申し上げます。

記

受賞者 高木 敏行（東北大学流体科学研究所）
 中野 英俊（通商産業省工業技術院計量研究所）
 本田 善久（京都大学工学部）
 （敬称略）

アジア・パシフィック振動会議 '93 (A-PVC '93) 報告

A-PVC '93組織委員会
 副委員長 末岡 淳男

機械力学・計測制御部門主催で「アジア・パシフィック振動会議 '93」が北九州市の北九州国際会議場において11月14日～18日の期間開催されました。会議のテーマ「A Dynamic Amenity」のもと、アジア・環太平洋のみならずヨーロッパ各国を含む17ヵ国から研究者や技術者が参加し、12講演会場を使って大々的に講演会が開催されました。下記のように論文提出数は351件に達し、特別講演4件、一般的な機械系、構造物の振動問題、計測制御問題など、トピックスの論文287件、また流体関連振動に関するシンポジウム(FIVES)の論文数60件の発表があり、いずれの会場とも熱気にあふれた討論が繰り広

げられ、盛況のうちに終了することができました。

また、付随行事としてTechnical Tour (TOTO+新日鉄、安川電機+新日鉄)、Post-Conference Tour (阿蘇国立公園+熊本テクノポリス)、BanqueおよびSpouses' Programも並行して行われ、多くの参加者を得ました。ご参加下さった方々、組織委員会委員の皆様、学会事業課中島勉課長に心から感謝致します。

国別の発表論文数

国	発表論文数	国	発表論文数
日本	215	米国	5
中国	48	カナダ	5
韓国	26	ポーランド	3
オーストラリア	21	イタリア	2
ロシア	8	英国, ドイツ	各1
ホンコン	7	インド, マレーシア	
シンガポール	6	パプアニューギニア	

講習会のお知らせ

「制御系設計ソフトウェア(CACSD)を用いた基礎から最先端の制御 (I)」 —MATLABによる制御系設計とロバスト制御の実際—	
日 時	平成6年2月1日(火), 2日(水) 9:00~17:40
会 場	川崎市産業振興会館 9階 第3研修室 (電話(044)548-4111, JR川崎駅西口下車徒歩8分)
聴 講 料	会員 30,000円(学生員 10,000円), 会員外 50,000円(一般学生 15,000円), いずれも教材1冊分を含む
そ の 他	詳しくは日本機械学会誌11月号会告(告629ページ)をごらんください。

「わかりやすい実用モード解析(実習付き)」	
日 時	平成6年4月20日、21日、22日
場 所	東京工業大学 国際交流会館 (東急目蒲線または大井町線 大岡山駅下車)
講 師	長松昭男(東工大)、白井正明(NKK)他
問い合わせ先	日本機械学会 機械力学・計測制御部門 担当: 村山ゆかり TEL 03-3379-6781、FAX 03-3379-0934 ◆詳しくは日本機械学会誌会告(平成6年2月号)を御覧ください◆

文献講読会のお知らせ

振動基礎研究会	
開 催 日	平成6年4月1日(金)~2日(土)〈通常総会に続けて開催〉
会 場	川崎市中小企業・婦人会館(川崎)
講読文献	「解析法」、「不規則振動」、「非線形振動」、「カオス」、「連続体の振動」に関する最近1年間の論文
そ の 他	研究動向、話題解説、国際会議報告、在外研究報告、書籍紹介のコーナーを設けている
連 絡 先	木村康治(TEL 03-3726-1111 ext 3179、FAX 03-3729-0628) 〒152 東京都目黒区大岡山2-12-1 東京工業大学工学部機械宇宙学科

モード解析研究会第5回セミナー	
開 催 日	平成6年6月9日(木)~10日(金)
会 場	東京都八王子市下柚木 大学セミナーハウス
購読論文	Proceedings of IMAC, AIAA Journal, J. of Sound & Vibration, Trans. of ASME, Int. J. of Analy. & Exp. Modal Analysis, etc.
参加方法	今回より新規参加を希望される方歓迎します。下記連絡先へご連絡ください。
連 絡 先	大熊政明(TEL 03-3726-1111 ext 4060 FAX 03-3729-0563) 152 東京都目黒区大岡山2-12-1 東京工業大学工学部「機械科学」科

新設された機械力学・計測制御部門の研究会および分科会

(ご関心のある方は、幹事まで連絡をお取り下さい)

コード番号	名 称(期間)	主 査	幹 事	幹事の電話およびFAX
A-TS10-22	東海ダイナミクス・制御研究会	太田 博 (名 大)	藤澤二三夫 (岐阜大) 水谷 一樹 (三重大)	TEL 0582-30-1111-4270 FAX 0582-30-1892 TEL 0592-31-9367 FAX 0592-31-2252
P-SC241	先端・産業計測調査研究分科会 (1993.9~1995.8)	梅田 章 (計量研)	上田 和永 (計量研)	TEL 0298-54-4164 FAX 0298-54-4135
P-SC245	感性計測・応用調査研究分科会 (1993.11~1995.10)	飯田 健夫 (生命工学研)	宮城 善一 (計量研)	TEL 0298-54-4043 FAX
P-SC246	マルチボディ・システムのダイナミクスと制御に関する研究分科会(1993.11~1995.10)	背戸 一登 (日 大)	須賀 義大 (東 大)	TEL 03-3402-6231 FAX 03-5411-3908

部門関連研究会のお知らせ
計算力学部門「コンピュータ・ダイナミクス研究会」

昨今のコンピュータの発達と低価格化に伴う普及はめざましいものがあり、ダイナミクスの分野においても新しいコンピュータ活用の調査、検討が必要となってきています。そこで、計算力学部門第4技術委員会（機械力学・計測制御分野担当）に関連したメンバーが中心となり、1993年10月に本研究会を設立致しました。

ダイナミカルシステムのモデル化、非線形力学解析、あるいは電磁・流体関連振動における移動境界値問題などへのコンピュータのより高度な応用に新たに取り組まされたい方々の参加を歓迎致します。

連絡先 〒223 横浜市港北区日吉3-14-1 慶應義塾大学理工学部機械工学科 吉沢 正紹
 E-mail yoshizawa@mech.keio.ac.jp
 TEL 045-563-1141 ex. 3117 FAX 045-563-5943

機械力学・計測制御部門マーク募集

機械力学・計測制御部門では、ニュースレター、部門主催の行事、講習会資料などで使用する部門のマークのアイデアを募集しております。奮ってご応募ください。

応募締切：平成6年3月31日

提出先：日本機械学会 機械力学・計測制御部門

担当 村山ゆかり(連絡先は本レター最終ページ参照)

他部門のマーク例



流体工学部門



環境工学部門

年 間 カ レ ン ダ ー

機械力学・計測制御部門行事予定一覧 (平成5年10月現在)

平成6年

開催日	名 称	場 所
2月1日～2日	講習会「制御系設計ソフトウェアを用いた基礎から最先端の制御(I) MATLABによる制御系設計とロバスト制御の実際」	東京
2月4日～5日	シンポジウム「第3回ダイナミクスに関するオーディオ・ビジュアルシンポジウム」	東京
2月	講習会「振動騒音の能動制御」(予定)	大阪
3月28日～4月1日	第71期通常総会(工学院大学)	東京
4月20日～22日	講習会「モード解析」	東京
7月11日～15日	講演会「Dynamics & Design Conference '94」 シンポジウム「第6回電磁力関連のダイナミクスシンポジウム」 シンポジウム「機能性材料とインテリジェント材料・構造システムシンポジウム」	秋田 秋田 秋田
8月	講習会「ダイナミクスにおけるMathematica利用入門」	東京
8月17日～19日	第72期全国大会(北海道大学)	札幌
8月31日～9月3日	国際会議「2nd International Conference on Motion and Vibration Control」	横浜
11月7日～9日	国際会議「5th International Conference on Adaptive Structures」	仙台

“Here or to go?”

日本文学を研究しているアメリカ人がいる。奥さんは日本人で、日本語は巧い(本人は勉強し出したのが遅く、ニュアンスまではなかなか分らないとか言うが)。江戸時代後期から明治時代初期が研究対象だそうで、ご講説を拝聴させていただいたが、知らない名前などがゾロゾロでてきて困った。

私の専門の話をすると、彼の知り合いに流体力学の研究者がいて、おもしろい話を聞いたといつて、その内容を話してくれ

た。ところがである、それまであんなに流暢な日本語を話していた彼が突然、“Um, …”と言った後、英語で話し出した。これはとても楽しかった。

ファースト・フードで“Here or to go?”ときかれ、“Japan.”と答えた方(複数)がいる由(幸いにも私ではない)。英語の専門家ではない日本人が分らなくなつて、恥でも何でもない(自分の専門の話しが支障があつてもとにかく出来れば、きっと、hopefully)。

佐藤 勇一(埼玉大学)

DYNAMICS
編集室

日本機械学会機械力学・計測制御部門
 〒151 東京都渋谷区代々木二丁目4番9号
 新宿三信ビル5階 電話 03-3379-6781
 FAX 03-3379-0934

編集責任者 津田 吉広(大分大学)
 編集委員 佐藤 勇一(埼玉大学)